

## 教育厚生委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成21年6月11日(木)

2 出席委員 (8名)

委員長 進藤 純世

副委員長 土橋 亨

委員 渡辺 亘人 皆川 巖 堀内 富久 金丸 直道

丹澤 和平 清水 武則

欠席委員 前島 茂松

地元議員 浅川 力三 副議長

3 調査先及び調査内容

(1) 【北杜南学校給食センター】

調査内容(主な質疑)

問)食物アレルギーは個別に対応しているとのことだが、アレルギー患者のを見つけ方については、患者本人の告知なのか、別途検査をしているのか。

答)現在、食物に対応しているのは3名。1名は牛乳、粉の製品、1名は甲殻類、1名はナッツ類となっている。この除去をするに当たっては、親からの申し入れがあったときに、校長と栄養士と養護教諭で話し合いをして、医者からの診断書を取ってもらったうえで、給食センターで確認し、調理員が確認し、その後対応するようになっている。

問)本人の告知ということですね。だから、潜在的にはもっとあるかもしれないですね。改めて検査まではしないということですね。

答)親からの申し入れにより対応しているので、潜在的にはあるかもしれない。

問)地産地消について伺う。どこの学校でも地元のものを使いたいと思っているが、いくつか問題がある。例えば、コストの問題、あるいは量の問題、ほしい時にすぐ調達できるかという問題があると思うが、どのくらいの比率で地産地消のものを使っているのか。

答)現在、推進しているところだが、昨年度までの市内の全体の給食施設での地産地消の割合は、おおむね17%という数字が出ている。

問) 地産地消をする場合にも、旬のものはなかなか難しいということだと思うが、そこをどのように学校給食に結び付けていくか。実は私は市川三郷町に住んでおり、野沢菜というのがある。この間、私のところに長野県の人がやって来て、この辺の百姓はまるで奴隷だねと言われてびっくりした。なぜかというと、時間までに向こうで言われた玉数を整えなければならない、飯も食ってられないということであった。その野沢菜を学校給食で使ってもらえないかと話をしたが、学校給食で使うにしても、とても量がありすぎるのが一つ。それから、そういう食材は限られているので、とても学校給食では使えないということだが、そのような旬の野菜なども使っているのか。

答) 例えば、長坂にも給食センターがあるが、献立というのはだいぶ早くからわかるので、地域の農事組合とかグループの方々と情報を交換して、その組み合わせを作っていたりとかしている施設もあり、そういうところでは、その周辺の野菜を使ってメニューに出している。

問) ぜひ地産地消のモデルになるように、農事組合なども活用していただいて、地元の野菜がたくさん使えるシステムをつくっていただきたい。

もう一つ、米飯給食は週3日ということだが、ブランド米はコストが高く、どうしてもブランドよりブレンドした米の方が安いということで、ブランドのものは使い切れないと思うが、地元の米は使っているのか。

答) J A 梨北の協力を得て、特別栽培米というものを栽培してもらって、100%市内で採れた米を現在では供給してもらっている。明野給食センターについては地元の農業生産法人、ほかの施設についてはJ A 梨北から入れている。

問) 当然地元のものだから高いわけだが、それでもコスト的には給食費の範囲内で収まるのか。

答) やはり値段の問題はJ A 梨北ともよく話し合いを重ねて、おおむね給食費の中で収まるような形でしている。

問) パン食2日を米飯に全部できないのか。

答) 現在、食育を進めていく中で、今まで3食でやってきたところを5食にしていく目標もあり、今後5食になるべく近づけていくという目標は立てている。

問) 食育はどこでも叫ばれているところだが、具体的にどのような形で食育をしているのか。

答) 現在、推進会議という組織をつくり、その中で、食育の方針などを昨年度は作成している。本年度から実践に入っていきわけだが、昨年度の1つの試験的な実地体験としては、スポーツ少年団を中心とした地域のグループの子どもたちと親たちを対象に、農業体験の米づくりや野菜づくりを体験してもらおうといったことをやっている。それから、前々から進めていた

が、どの学校も学校の畑を持っており、さつまいもなどを栽培する中で、農業に親しむ。それから、昨日の山日新聞と本日の朝日新聞に明野小学校の田植えの体験の記事が載っていた。明野小学校等においては、地元の農家の方々に指導してもらい、種まきから苗枠で苗をつくって、それを育てて、先日の田植えに至っている。他には、栄養士さんたちに給食の時間を使って、今度は食べる方のことについて、いろいろな食物と健康の関係などについて教えてもらうということを今のところやっており、これらをもっといろんな形で食育につなげていくような取り組みをさらに進めていきたいと考えている。

問) 地産地消については、各学校とも何とか取り組んでいきたいと思っているが、先ほど話した、たぶん3つの問題、コスト、量、ほしい時にすぐ手に入るという時期の問題をうまく解決していただければ、もっと進むと思うが、ぜひそういうモデルを作っていただければと思う。

問) 一番気を使うのはやはり食中毒ではないかと思われるが、特に衛生面において、ここだけではなくて、学校へ運搬して行った後の管理なども含めて、ここは徹底しなければならないというように、どういうところを一番重点的に考えているのか。

答) この施設はたいへん衛生管理に優れた施設だと思っており、せっかくなつくっていただいた施設を上手に使えるようにということで、調理員には日々、衛生管理の講習を実施している。まず、当たり前なことだが、必ず手洗いをすること。場所から場所へ移るときには、必ず手洗いをすること。作業が変わるときにも手洗いをすることを徹底している。先ほど、説明したとおり、温度管理、冷たく入ったものは冷たいまま保存して、一気に過熱して80度まで上げ、その温かいものをそのまま出せるような工夫をしている。配送先の学校においても、こちらで衛生的につくられたものが最後まで衛生的に扱われるようにということで、文書によりこういうふうに扱ってくださいという指示も出している。子供たちの手洗い指導も養護教諭を通して徹底してもらうようにしている。学校に届いたものは教室まで絶対にふたを開けないようお願いしており、もし何か給食に入っていたときにも、どこで何があったかわかりやすいように途中で絶対に開けないようお願いをしている。今、感染症でなくても、一生懸命食べようとして吐いてしまう小学生もいる。嘔吐して食器に嘔吐物がかかった場合などは、こういうふうにしてくださいという指示も学校に出している。学校で、職員室など別のところで洗剤でよく洗って、きれいにふき取って、アルコールで消毒をして、袋などに入れて給食センターに戻してもらう。その時にも、この食器には嘔吐物がかかりましたということを書いてもらい、今度給食センターに来た物は塩素につけ込み、それを殺菌消毒して、それから普通に洗って、加熱して殺菌している。とにかく嘔吐した場合には、感染症を疑ってかかってくださいと先生方には言っている。調理員にもそういった物が来た場合には、それは汚い物だから気を付けなさい、他のものとは絶対に一緒にしてはいけないということで注意を促している。

子どもたちが安全でおいしい給食を楽しく食べられるようにということで、食中毒を出してはいけないという信念のもとで仕事をしている。

問) 地産地消についてだが、必要なのは、早い時期から、この時期はここでこれがたくさん採れるということをもっと計算することによって、もっと地産地消ができるようになるのではないかと思う。今、他の委員から言っていたので、ぜひお願いしますということと、もう一つ、給食というときに気になるのが、例えば、風邪をひいて3日間休んでいても1ヶ月分の給食費は同じなのか。

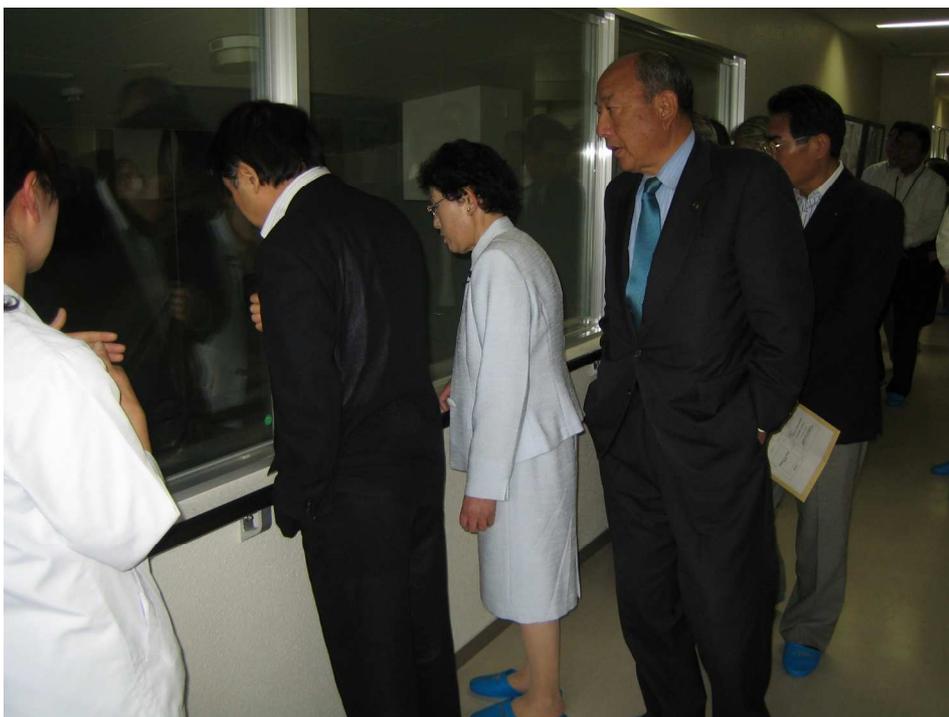
答) 給食費については、本市の場合11回徴収し、食べた食数で計算して、最終的に2月に精算するというので、2月の給食費は人によって違う。

問) 結構お金があるのに給食費を払わないという問題がいっぱいある。この不景気の中で、本当にお金がなくて払えないという家庭もあると思うが、北杜市の集金状況はどうか。

答) 引き落としができなかった場合には、3ヶ月に1回ほど督促状を出している。それが2回くらいたまってくると、戸別訪問して納入を促したりという努力をしている。それから、毎年度1回、出納閉鎖の前に、特に滞納の多い方々については、教育委員会の職員が手分けして、戸別訪問をして納入を促している。収納率は本年度もおおむね98%以上にはなると思うが、そのような状況でなるべく滞納しないようにお願いして歩いている。

問) そうすると、約1,500食つくっているが、そのうちの2%くらいということか。

答) 最終的には2%を切って、九十九点何パーセントくらいにはなるが、5月31日までの年度では、そのくらい出る可能性はあるが、毎年99%くらいは努力して収納している。



説明・質疑を行う前に、調理の状況を見学した。

(2) 【障害福祉サービス事業所 緑の風】

調査内容(主な質疑)

問) 工賃が18年度は月額10,128円、20年度には12,676円に上がっているが、この上がった経緯を教えてください。

答) 基本的に工賃は授産活動の売り上げから必要な経費を控除して、いわゆる純利益を利用者に配分するシステム。原価等を圧縮する努力もしているが、売り上げを上げることが最大の要因ということで、この施設を始めて2年目に何とか1千万を超えることができた。本年度は総額で2千万を超える予定であり、利用者の工賃2万円を目標に頑張っている。

問) 生産を倍増していった、それが売れないと困るが、それについてはどうか。

答) この地域の公共施設、学校とか警察に加えて、観光地の売店にも納めている。同時に、ファックス等で注文を受け、現在、宅急便のシステムが非常に良くなっているので、指定した日時に配達している。全国展開しており、かなり遠隔地からも支援をいただいている。



説明・質疑を行った後、施設見学と施設利用者の保護者の方々との意見交換会を実施した。

以上